

Palo Blanco からの *G.catamarcense* の興味深い発見と それに関連した議論



Jaroslav Procházka

Jurkovičova 7, 63800 Brno – Lesná (Czech Republic)

e-mail: prochazka.gymno@seznam.cz

※これは、Mario Wick 氏らが主宰する、*Gymnocalycium* のインターネットジャーナル(<http://www.schuetziana.org/>)
に載せられた記事です。著者の好意で、翻訳の掲載許可を頂いています。無断転載を禁止します。(翻訳；島田 孝)

少し前に、私は、アルゼンチンを旅行していた友人から、*Gymnocalycium* 種の写真が添付された電子メールを受け取りました。植物は、まだ明白には、同定されませんでした。しかし、最初の印象から、それらが *G.catamarcense* に属していることは確かでした。

発見場所は、Catamarca 州の Palo Blanco として示されました。最初、私は、述べられた発見場所が正しいかどうか、理解しませんでした。私の問い合わせから、私は、とても私を驚かせた答えを得ました。

Palo Blanco は、実際、Fiambalá の北にあります、そこでは、誰も最近まで *Gymnocalycium* 種

を発見していなかった。そして、もちろん、何もこれまで見つかりませんでした。

Cactus Club のメンバーが、Palo Blanco に行き、

Mediolobivia を探しに近くの山に行きました。そこで、彼ら

はそれを探索中に *Gymnocalycium* 種を見つけました。そして、今、私は目の前に、それらの写真を持っています。

(訳者注：Palo Blanco で発見された、新しいギムノカリキウムは、主にチェコのコレクターにより確認され、色々な名前(裸名)で報告されています。Martin Tvrdik(MT) : *G.catamarcense* ssp. *fiambalense*、Tomáš Kulhánek (TOM) : *G.catamarcense* ssp. *elegans*、RER(Radomír Řepka) : *G.catamarcense* v. *elegans*、Vaclav Jiranek(XVJ) : *G.catamarcense* v.、Jaroslav Procházka : *G.catamarcense* v.(ssp.)=*G.guanchinense* fa.、Petr Kupčák : *G.catamarcense* ssp. *malochii*、Massimo Meregalli(MM) : *G.guanchinense*、また *G.spegazzinii* – *catamarcense* とする人もいます。)



Fig. 1-2 : Rio Guanchin

私が、*G.guanchinense* Schütz の話題で、「Gymnofil」に幾つかの短文を書いて、既に 10 年になります。それは、最初の記述の発見場所の問題を言及しています。(訳者注：*Gymnofil* はチェコのギムノカリキウム愛好家団体が発行する雑誌、団体名も同じ、代表は著者の Procházka 氏)

私は、その最初の記述で言及している、発見場所の *Gymnocalycium* 種の外観について、すでに説明しました。私が得た否定的な答えは、明らかに、私をいらいらさせました。

そのギムノ種は、そこでは、成育していません。そして、いま、私が何故、その写真と特に発見場所に驚いた点に戻ります。Palo Blanco は、*G.guanchinense* の基準標本の産地としての、Schütz 氏(訳者注：*Bohumil Schütz*(1903-1993)、チェコの著名なサボテン専門家、博士、IOS の創立メンバー)の最初の記述での Frič 氏の口頭での説明に基づく場所からあまり遠くありません。(訳者注：*Alberto Vojtěch Frič* (1882-1944)、チェコの植物学者、冒険家、プラントハンター)

アルゼンチンへの我々の昨年の訪問の間、我々は San Luis 州のほとんど知られていない場所、La Rioja 州の南部、そして、Cordoba 州の北部で、更に詳細に探す予定でした。Palo Blanco は、我々の



Fig. 3-4 : *G.catamarcense fa.* の生息地



Fig. 5 : *G.catamarcense fa.*

Fig. 6 : 花の付いた *G.catamarcense fa.*

でしたが、反対側の東 Guanchin と呼ばれる大きな牧場地帯には、行こうと思いませんでした。

の目標の場所から遠かったです、しかし、私達はそこに行くことを抵抗できなかった。

この前の旅行の 6 週間でさえも、まだ十分に長くありませんでした。我々は旅行の最後まで Palo Blanco への訪問を残しておきました。しかも、我々は、少しの間、Buenos Aires へ、立ち寄る為に戻っています。私たちは、2007 年に、Fiambalá 周辺の議論している、Rio Guanchin 川近くにい

Fig. 7 : *G. guanchinense*, B.Schütz 博士の最初の学術記載 (1947)

P R A H A

Ú N O R 1 9 4 7

B R N O

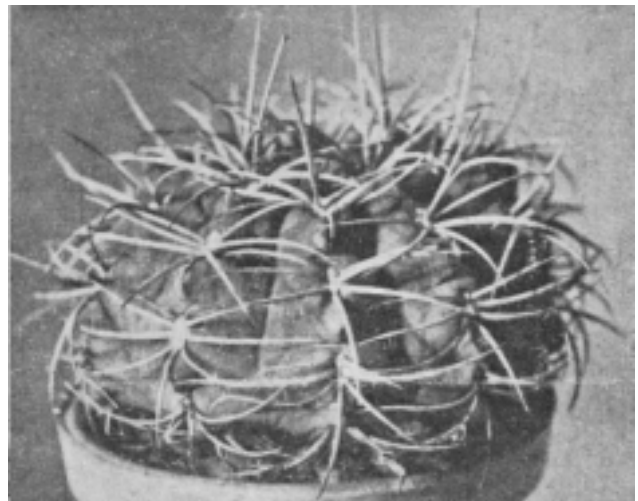
● ***Gymnocalycium guanchinense* dr. Schütz spec. nova.**
(*Gymn. sp. Guanchin Fričův katalog n. n.*)

(訳者注：ラテン語とチェコ語の翻訳は島田寿男氏にお願いしました。独学なので、翻訳の精度は高くないと思って読んで下さいとのことでした。)

胴体は、圧縮された球形、直径 10cm、そしてそれ以上の形態も、褐色を帯びた緑色っぽい、稜はおおよそ 13 個、低い、真っ直ぐ、切り込みで、瘤に別々に分けられている、刺座は長円形、大きさ 5mm x 2mm、短く、振じれた、灰色から白の綿毛で覆われている。縁刺は 7 本から 9 本、そのうち 1 本は下に曲がっていて、長さ 20mm；刺座から幅広く両側に存在する 3 対は、長さ約 25mm、最上部の 2 本の刺は、短い、あるいは、時折存在しない。全ての刺は曲がっている、角色、そして表面はスポンジ状(多孔質)、胴体に隣接していることも、より多くは普通に出ている、中刺は長さ約 25mm、そして更にそれ以上長い事も、上に曲がっている、時折全く存在しない。

花は長さ、約 50mm で、同じ位の直径、子房は長さ、約 20mm、青緑色、青緑色で、バラ色の縁のある鱗片が疎らに配置されている。外花卉は長円形、先が丸くなって、バラ色(赤ピンク色)、下方は青緑色、そして縁はバラ色(赤ピンク色)、内花卉はランセット形状、先が尖っている、バラ色(赤ピンク色)、強く色付いた筋が、縦方向に配置されている、絹のように光っている、子房は短い、柱頭は 8 個に裂かれている

(8-fidum:辞書に無い fidi は findo(裂く)の過去分詞と考えて訳した。)、黄色、雄蕊は多数、花糸は血のように赤い、葯はバラ色(赤ピンク色)、花粉は黄色、果実は細長い円錐形、青緑色、成熟すると縦方向に裂ける、種子は多数で、小さい、黒い、艶消し、縦長の半球形、表面は、平らに広がった、コルク質の種皮が備わっている。



自生地は、アルゼンチンのアンデス山系(註：Cordilleris とは Cordillera de los Andes を意味する)の中 Rio de Guanchin の近く

以下チェコ語、辞書で分る範囲で訳す。

胴体の外観は、平坦にされた球形、茶緑色の色調、直径は 10cm かそれより大きい、頭頂部は禿げている(綿毛も刺も無い)、稜は、数で約 13 個、低く、真っ直ぐ、相互に、鋭い切り込みで孤立している、横の切り込みで、刺座の下でアゴ状に突き出した瘤に分割されている。刺座は長方形、大きさ約、5mm x 2mm、短い、灰白色の、振じれた、フェルトで覆われている、しかし、早く、綿毛は無くなる。刺は、、、

我々は、*Lobivia famatinensis ssp. bonniae* と *Puna bonniae* の生息地を訪れました。チリに行く、長い範囲の道路は、Rio Guanchin 川に沿っています。Fiambalá の北、そしてまた、部分的に南に、大きな砂原、三方が山に囲まれた、文字通り、「小さいサハラ」があります。Fiambalá から約 40km の北西、小さな村 Palo Blanco は、その砂原の中央にあります。新しい道は、Fiambalá からその村



Fig. 8 : B.Schütz 氏の種子から育てた *G. guanchinense*、花無し
Fig. 9 : B.Schütz 氏の種子から育てた *G. guanchinense*、花有り



Fig. 10 : *G. guanchinense*、花断面図
Fig. 11 : *G. guanchinense*、花が無い Rausch 氏からの植物



Fig. 12 : Rausch 氏からの *G. guanchinense*、花付き
Fig. 13 : Palo Blanco の *G. guanchinense* fā.

た。刺は、多少、胴体に押し付けられ、その一本は下を向きます。刺の長さとは非常に変化に富みます。我々の訪問した時、その植物は花が咲いていませんでした。しかし、青から緑色の果実があることで、花が短い果皮を持つとすることができます。(図 5 と 6) この場所から、我々は数 km、西へ移動して、より多くの同じ植物を見つけました。Palo Blanco の 17km 北あたりでも、同じ植物が成長します。それで、その地域の最初の短い調査は、その議論している植物は、Palo Blanco の西と北

へ行きます。これらの西の場所では、砂は、徐々に砂利基材に変わります。(図 3 と 4) そして、そのような沈泥(記者注:シルト、砂よりは細かいが粘土よりは粗い沈積土)と砂利の中には、まばらな灌木が生えています。そして、正確にそこで、我々の同僚の指示で、我々はこれらの植物を見つけました。

一見して、これらの植物が *G. catamarcense* のグループに属することは、明白でした。ほとんどの場合、その植物は灌木の下の陰に感謝しています。成熟した植物の直径は 12cm 以上です、そして、高さは 20cm を超えることができます、そして、長い狭い刺座は興味深いです。

それらは、約 15–20 mm 長さの 7–9 本の刺を持ちます。しかし、中刺は、観察されませんでした

に位置し、そこは、砂が無い場所、砂利の基質(私達の調査結果)が支配的な、既に言及した山の近くに主に集中していることを示しました。

イタリアのサボテン栽培者からの報告によると、彼らも、今年、再び、地元の山の山麓地帯、砂原の東側と北側で *Gymnocalycium* 種を発見しました。彼らもまた、



G.catamarcense としました。しかし、異なる

Fig. 14-15 : *G. guanchinense* fa., Palo Blanco

生息地です。そこで、我々は、Fiambalá 地域で、*G.catamarcense* に属する、3つの異なる生息地があると言う事が出来ます。我々は、この地域に、より多くの時間とどまることができないことに、非常に失望しました。その当時、Tinogasta、或いは Fiambalá のどちらのガソリンスタンドにも燃料がありませんでした。そこで、短い調査の後、この場所から帰らなければなりませんでした。我々は、直前になって、ほど遠くの San Blas で燃料を得ました。それは、我々、または他の誰かが、*G.guanchinense* や Frič の産地近くにある発見場所の不確かさを取り除くのを助ける為、これらの場所への、もう一つの旅行が待っているようです。



Fig. 16-17 : *G.guanchinense* fa., Palo Blanco

発見物によって好奇心に駆られる、私の見解をただ指摘したい。

また、Palo Blanco が Rio Guanchin (Catamarca) ではないことは、指摘する必要があります。そして、それは、初記載文に書かれています。これらの場所は、およそ 20km 離れています。しかし、我々は、Rio Guanchin の地域を探していません。けれども、私はまた、植物がそこで見つかると思っています。実際、私は正確に記述された植物の生息地を知りません。そして、それは示されません。実際上、ほとんど、それは不可能です。オーストリアの雑誌 *Gymnocalycium* : 17 (3) 2004 での「*G.guanchinense* Schütz の同定について」の記事は、異なる生息地での報告です。

(訳者注 1 : are cited→are recited?) (訳者注 2 : 今年 2 月に亡くなられた、オーストリアのギムノ専門家 H.Till 氏の論文、*G.guanchinense* の同定に関して以下の記述がある。……Frič 氏は 1929 年の彼のカタログの中で *Gymnocalycium spec. von Guanchin* とのみ引用しているのにもかかわらず、Schütz 氏は彼の *G.guanchinense* の学術描写の中に、Frič 氏はこの植物個体を Rio Guanchin の溪

次の一節の前に、私は批判的として取られる、以下の記事での、私の言葉のどれも好んで言っているのではないと言いたい。これは確かに私の意図ではありません。私は、私自身の目による別の事実と Palo Blanco 近くの

谷で発見したと書いた。A.V. Frič 氏も又 B.Schütz 氏も同様に既にずっと以前に故人になっているので、その種の本当の発見場所を突き止めることは非常に難しかった。アルゼンチンの Catamarca 地方の西部から北の方 Rio Grande の中に Tinogasta という町がある。そして約 110km 南の La Rioja 地方の Cuesta de Miranda の始まりの所に Guanchin という場所がある。それから数十年後ウイーン在住の Walter Rausch 氏が始めてヨーロッパに *G.guanchinense* の植物個体を持ってきた。図 1 の右側のより小さい植物個体が Schütz 氏の物で原産地球とされたものである。左側のより大きい植物個体は輸入品で 1972 年に Rausch 氏が 5 度目のアルゼンチン旅行から持ってきた物である。R568 は Cuesta de Miranda 産である。従って我々は今や *G.guanchinense* の本来の発見地が何処であるかということを知っている。Frič 氏は、彼の *G.spec. Guanchin* を Rio Guanchin の溪谷では発見していなかった。それでその地点の数回の搜索にもかかわらず、全く一つも *Gymnocalycium* が生息していなかった。Guanchin という場所は Cuesta de Miranda の山道の東側にあるのに対して *G.guanchinense* と規定された *Gymnocalycium* の生息圏は Cuesta de Miranda の山道の西側にある。その種はここでは Los Higuertas(図 2 と 3)、Piedra Pintada(図 4 と 5)、Puerto Alegre(図 6 と 7) 近くの西側にある山裾上にある山道の数箇所広く分布して生えている。Los Tambillos (図 8 と図 9 参照) 近くの赤いラテライトを含んだ土の中で見事に伸びた球形状、年数の経た物は短い円柱状の植物個体が、ここでは大抵藪の保護の下に直径 15-18cm、高さ 20-35cm まで到達している。) (訳者注³: La Rioja 州の Guanchin からは、類縁種の *G.rhodantherum* のみが発見され、刺の細くて長い *G.guanchinense* は、発見されていない。広い意味で H.Till 氏と W.Rausch 氏が *G.guanchinense* とした種は *G.rhodantherum* と考える研究者も多い。日本で、*G.guanchinense* とされている種は、H.Till 氏や W.Rausch 氏の *G.guanchinense* である。)



Fig. 18-19 : *G.guanchinense* fâ., Palo Blanco

ノカリキウム属の専門書)」で記述されました。しかし、Walter Rausch 氏は *G.guanchinense* (fig. 9?) について、1972 年に新しい証拠をもたらしました。したがって、Schütz 氏は、当然、自分の専門書で新しい Rausch 氏の声明を繰り返しました。

しかし、何故、新基準標本が、タイプ標本産地として、最初のラテン語 Rio de Guanchin を維持したかのは、全く奇妙です。しかも、新基準標本の位置は、実は、疑わしい Guanchin の位置のかなり遠い南西にあります。La Rioja 州、Puerto Alegre と Piedra Pintada 近くの Sierra de Famatina の向こう側です。通常、Frič 氏からのすべてのデータが悪かったとすることができません。しかし、我々は、それらすべてが、良いとすることができません。私が Patagonia を訪問していたとき、*G.gibbosum* に関するデータと Sierra de la Ventana についてのコメントが非常に良かったことを、確信しています。

ここで、最初の学術
記載が重要であることを
理解する必要があります。その言葉
「Famatina の傍、
Cuesta Guanchin」は、
Schütz 氏の
「Monografie rodu
Gymnocalycium (ギム
ノカリキウム属の専門書)

我々の Cactus Club (有名な *Notocactus* のスペシャリスト) の会長は、ちょっと前、ウルグアイを訪問しました。Piriapolis 地域から Frič 氏のメモに基づいて、彼は、Libiny にある、古い空き家のホテルを発見しました、そして、そのホテルから、*Wigginsia* 種の発見場所までの旅行が正確に記述されていた。それで、彼はまだ今日 *Wigginsia* 種その他を見つけることができました。そして、発見場所の Frič 氏の指摘を誤りと宣言して、新しい発見場所について声明をすることは、多分正しくないでしょう。それが維持されることになっているならば、*G. guanchinense* Schütz は、所定のある植物を新基準標本と生息地もまた指定しておかなければならないことは、理解出来ます。

今、その植物について何かが重要です。私は、1947 年に Schütz 氏の最初の著作で印刷された、植物の非常に素晴らしい写真とこれらの植物を同一視するのもまた必要であり、それは、多くの他のケースでは普通であると、私は思います。

今日まで、数人の人々だけに知られている、この絵 (図 7) に関する議論が、ありませんでした。それは、雑誌 *Gymnocalycium* : 17 (3) 2004 での記事でさえも発表されませんでした。Schütz 氏の写真の植物をその記事での写真 No.1 と比較すれば、私たちは 2 つの異なる成育習性を見ます。

Schütz 氏の写真の植物は、一見して、すぐに *G. catamarcense* の種グループとの明らかな類縁関係があります。それからあなたが最初の学術記載の写真と Palo Blanco からの植物を比較するならば、一致は非常に顕著です。おそらく、中刺だけは矛盾しています、しかし、最初の記述では、その植物の中刺が無い場合もあると言っています。Schütz 氏は、確かに若い植物を記述していません。(雑誌 *Gymnocalycium* : 17 (3) 2004) もし、彼が、Frič 氏の種子を 1930 年に播種していたなら、1947 年の記述の時までには、その植物は 16 才です。Schütz 氏は、*G. guanchinense* はゆっくり成長すると述べています。私は 1988 年以来、Schütz 氏の種から私自身で植物を栽培しました、そして、それらは、まだ小さいです (写真 8)。そして、もう一つの事、花の写真で、すでに言及される記事で、花の中の花糸は、明らかに白いです。しかし、Schütz 氏は正確に、それを血のように赤いと評しました。言及されている植物が、適切に *G. catamarcense* の品種であることが、簡単に帳消しにされることはできないと、私は思っています。以前なされたように、これらの植物に、より多くの注意と議論を与えてください。もちろん、有効なものとして、H. Till 氏による *G. guanchinense* の新基準標本の説明をすることが、まだ必要です。Fiambalá 周辺の地域が、すべてのその秘密をまだ明らかにしたわけではないと、私も思っています。これらは、考慮すべき、若干の考えです。どれだけ真面目に受けとめられるかは、読者自身で決めて下さい。

謝辞

私は、Graham Charles 氏に英語テキストを添削して頂いたことに対して感謝します。

参考文献

- Schütz, B. (1947): Zprávy Československé kaktusářské společnosti (News of the Cactus Society of Czechoslovakia). p. 21–23
- Schütz, B. (1988): Monografie Rodu *Gymnocalycium*.
- Till, H. (2004): Bemerkungen zu *Gymnocalycium rhodantherum* und den mit ihm verwandten Taxa.